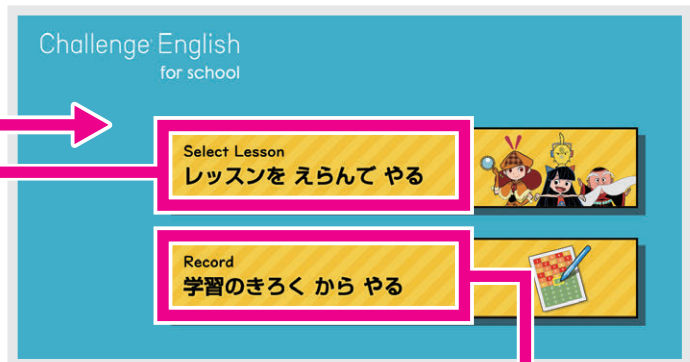


教材の使い方

目的に合わせて2つの入り口を使い分けましょう



ミライシールドトップ画面



Challenge English for school トップ画面

授業

- クラス全員で先生が指定したレッスンに取り組むとき

自習時間・宿題

- 児童が自分のペースで取り組み学習を進めるとき



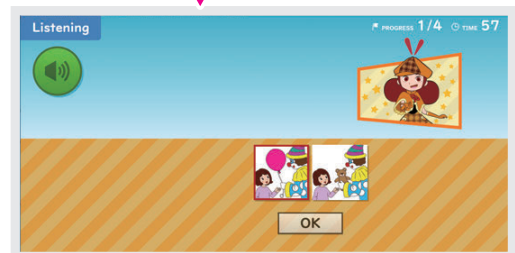
レッスン選択画面



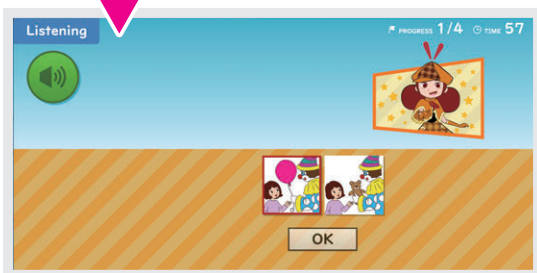
学習のきろく画面



リスニングレッスン選択画面



レッスン画面



レッスン画面

レッスンの種類を「レッスン選択画面」で選び、取り組みたいテーマのレッスンを指定します。

「学習のきろく画面」で取り組んでいないレッスン（緑色）[※]や、できなかったレッスン（黄色）[※]に着目。コマを選ぶとすぐレッスンに取り組むことができます。

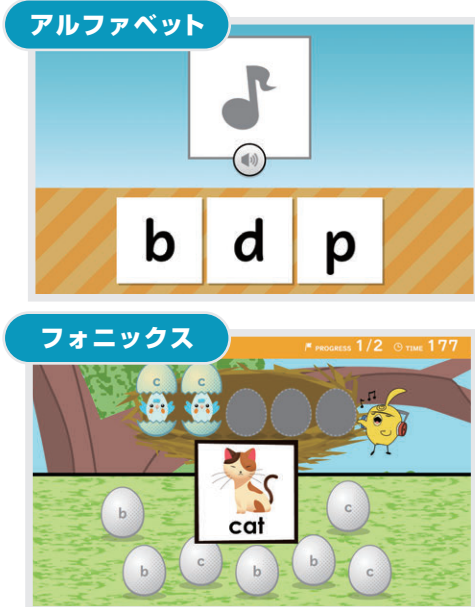
※ 取り組み状況はコマの色で一目瞭然！

Perfect	100点！ たいへんよくできました
Cleared	よくできました
Try Again	もういちど とりくみましょう
	とりくんでいない レッスン



文字学習や授業の発展学習に。 外国語活動や授業の可能性が 広がります

文字学習



アルファベット大文字・小文字の形と読み方を習得し、書く練習ができる

大文字と小文字の形と読み方をしっかり覚えて、書けるようにすることを目指します。とくに小文字を正しく読み書きできるようにしておくことは、中学以降に本格化する「書く」の下支えになります。

文字と音の結びつきを学び、読み書きの土台をつくる

単語や英文の読み書きにつながる力を養います。小文字学習と並行して、音と文字の関係を学ぶことができます。中学以降、単語のつづりを覚えたり、単語や英文を読んだりするときに役立ちます。

発展学習



教科書で扱う表現を含んだ英文の大意把握トレーニング

What ___ like? (～は何かが好き?) など、教科書でも扱う表現を含んだやりとりやスピーチを聞いて内容をつかむ練習ができます。外部検定試験や入試などで採用されている出題形式に、少しずつ慣れることができます。

教科書で扱う単語をカテゴリ別に習得し、聞いてわかる単語を増やす

教科書でも取り上げられている単語を「動物」などカテゴリ別に習得します。「聞く・話す」に重点がおかれている小学校英語に合わせて「聞いてわかる」「話して使える」単語を増やします。

3年生～6年生まで学年を超えて習熟度に合わせて学習可能

レベル1・2	レベル3・4
総的な表記	2年生までの既習漢字まで使用

下のレベルの方が低学年が多いことをふまえて、レッスン中に日本語が出てくるところでは左表のように漢字を採用しております。

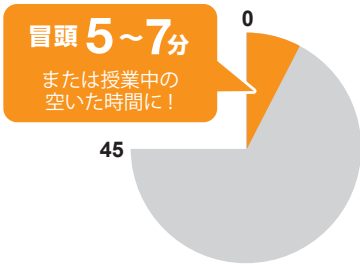
※一部例外はあります。
※リスニング・単語はレベル1～4、アルファベットはレベル1・2、フォニックスはレベル2・3にレッスンがあります。



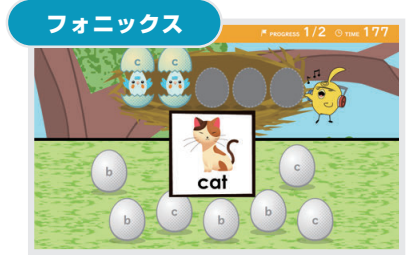
文字学習として授業に組み込む

アルファベットとフォニックスを授業の文字学習のひとつとして使います。朝活動や帯活動にもおすすめです。

活用タイミング



活用レッスン



学習のめあて



大文字・小文字の形と読み方を覚える



ましがえやすい文字を正しく見分けることができる



お手本を見ながら大文字や小文字を書く



アルファベットの集合体が単語になることを理解する

取り組みのコツ — アルファベット

テーマごとに関連のある2~3レッスンを1回の授業で活用してみましょう。

Level 1		CLOSE ^
>Step 1		
>Lesson 1	かたちと かたち (A-I)	
>Lesson 2	おとと かたち (A-I)	
>Lesson 3	かたちと おと (A-I)	
>Lesson 4	かたちと かたち (J-R)	
>Lesson 5	おとと かたち (J-R)	
>Lesson 6	かたちと おと (J-R)	
>Step 2		
>Lesson 1	かたちと かたち (S-Z)	
>Lesson 2	おとと かたち (S-Z)	
>Lesson 3	かたちと おと (S-Z)	
>Lesson 4	かたちが にている おおもし1	
>Lesson 5	かたちが にている おおもし2	
>Lesson 6	おとが にている おおもし	
>Step 3		
>Lesson 1	おおもし ふくしゅう1	
>Lesson 2	おおもし ふくしゅう2	

(レベル1ステップ1~3の例)

大文字 (A~I) の形と読み方を覚える

大文字 (J~R) の形と読み方を覚える

大文字 (S~Z) の形と読み方を覚える

ましがえやすい文字を正しく見分けることができる

大文字 (A~Z) の総復習

取り組みのコツ — フォニックス

アルファベット大文字・小文字をひとつおり学習したのちに、フォニックス学習へ入ることがおすすめです。フォニックスレッスンがレベル2から始まるのもその理由からです。

>Step 7		CLOSE ^
>Lesson 1	かたちと かたち (a-o)	
>Lesson 2	おとと かたち (a-o)	
>Lesson 3	かたちと おと (a-o)	
>Lesson 4	かたちと かたち (q-u)	
>Lesson 5	おとと かたち (q-u)	
>Lesson 6	かたちと おと (q-u)	
>Step 8		OPEN v
>Step 9		OPEN v
>Step 10		OPEN v
>Step 11		OPEN v
>Step 12		CLOSE ^
>Lesson 1	おと おおしゅう1	
>Lesson 2	おと おおしゅう2	

レベル1 ステップ7~12で小文字の読み・書き、総復習に取り組みます。



レッスンにとりくもう!		Phonics
Level 2		
>Step 1		
>Lesson 1	bat & car	
>Lesson 2	hat & mat	
>Lesson 3	fan & van	
>Lesson 4	jet & net	
>Lesson 5	dog & fox	
>Step 5		
>Step 7		

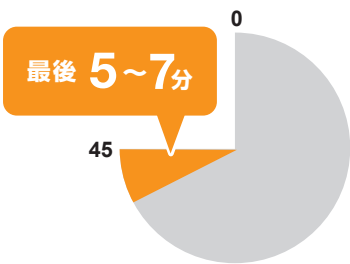
小文字をひとつおり学習したところでフォニックスにレベル2ステップ1から取り組みます。



発展学習として授業に組み込む

教科書の単元学習のあと、関連した表現や単語を含んだ内容のレッスンを発展学習として使います。

活用タイミング



活用レッスン



学習のめあて

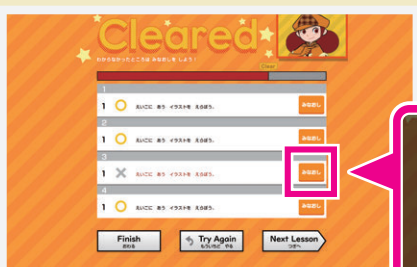
- キーフレーズを含んだ英文を聞いて内容を理解できる
- キーフレーズに関連した単語を覚える

発展学習例

外国語活動や授業のテーマからの発展学習例をいくつか紹介します。

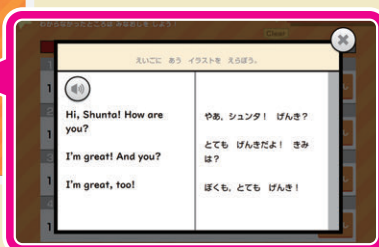
授業の内容	リスニング（聞く）	単語
「好きなもの・好きなことのやりとり」を学習	レベル1ステップ5レッスン2 「すきなものをつたえる ひょうげん1」	レベル1ステップ1レッスン4 「がっこうせいかつ」
「買い物やレストランの注文のやりとり」を学習	レベル3ステップ10レッスン1 「かいもののやりとり」	レベル1ステップ8レッスン2 「たべもの・のみもの」
「場所・位置・道案内のやりとり」を学習	レベル3ステップ11レッスン2 「もくてきちまでのせつめい」	レベル1ステップ4レッスン2 「まち・のりもの」
「1日のスケジュールの言い方」を学習	レベル4ステップ7レッスン1 「にっかについてのやりとり」	レベル2ステップ11レッスン1 「どうさひょうげん」

※提案レッスンは一例です。ふさわしいレッスンはほかにもあります。



結果画面

出題後の結果画面で、まちがえたところの確認と見直しを。一人で取り組んでも「わからない」を残さない！



リスニングでは「みなおし」から出題文と音声は何回でも確認できます。



「学習のきろく」から単語を レベル1～4まで順番に学習

ゲームでアイテムを集める感覚で、聞いてわかる単語を自宅学習で増やします。

活用タイミング

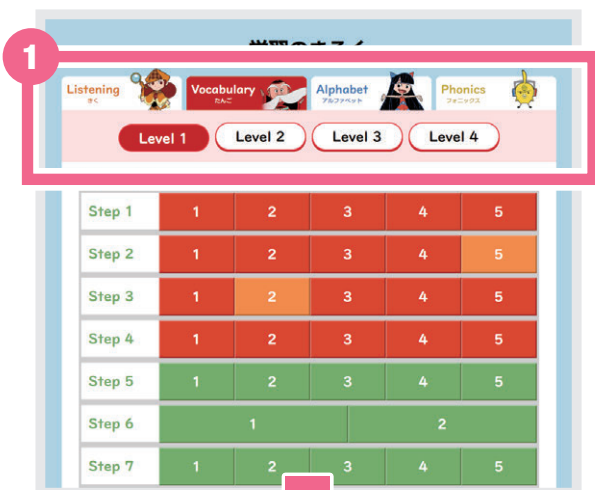
普段の宿題や夏休みなどの
長期休みの宿題

活用レッスン



食べ物や飲み物、動物など身近な単語は「読む」レッスンもあります。

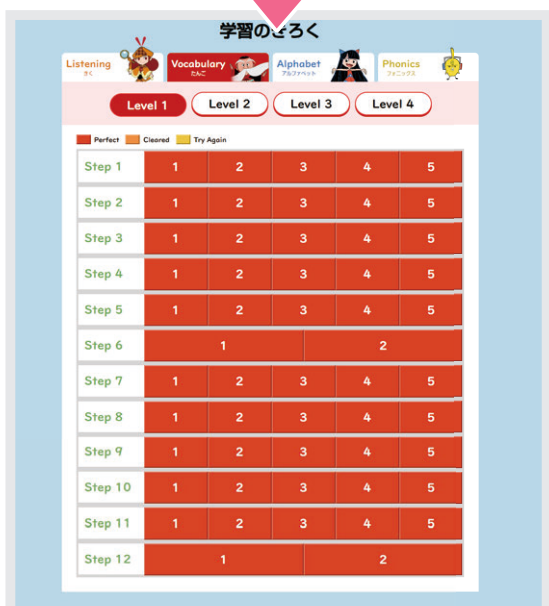
取り組み方法



学習のきろく画面

- 1 上のタブで「単語」「レベル1」を選びます。
- 2 「学習のきろく」で取り組み結果を見ながら順番にレッスンを進めます。結果によってコマの色が変化します。合格基準は7～8割正解です。

Perfect	100点! たいへんよくできました
Cleared	よくできました
Try Again	もういちど とりくみましょう
	とりくんでいない レッスン



学習のきろく画面

- 3 すべてのコマの色が赤（全問正解で合格）かオレンジ（合格）になったら、レベル2に進みます。

取り組み状況に合わせて「すべてのコマを赤にする」（＝全問正解で合格）を目標としてもよいでしょう。
レッスンの結果は良いものが上書きされていきます。

よくある
質問

Challenge English for school しくみや使い方について Q&A

Q

「○年生には△レベル」などの基準はありますか？

A 何年生でもすべてのレベルを学習可能です。初学者が多いと思われる3・4年生はレベル1・2から選ぶとよいでしょう。

レベル1を初学者向けとしてレベル2, 3, 4となるにつれ少しずつ内容のレベルも上がっていきます。低学年の方が初学者が多い傾向がありますので、3・4年生の授業ではレベル1・2を中心に行うとよいでしょう。5・6年生の場合、初学者が多い場合はレベル1・2を中心に、英語学習経験がある児童が多い場合は、少し上レベルから提示してもよいと思います。

Q

全部のレッスンを使いきれない場合、よい方法はありますか？

A 「まとめ」や「復習」レッスンを活用してみるのも一案です。

<リスニング(聞く)・単語レッスン>

ステップ6と12がそれぞれ前半・後半ステップのまとめのレッスンになっています。そのため他のステップに比べて出題数が多くなっています。

<アルファベットレッスン>

テーマに「ふくしゅう」と入っているレッスンがあります。どの程度、文字が定着しているかを確認するために、まず「ふくしゅう」からやってみるのもよいでしょう。

Q

児童の取り組み状況を把握するにはどうしたらよいですか？

A 「学習のきろく画面」でコマの色を確認したり、「レッスン選択画面」のメダルの有無、色を確認したりするとよいでしょう。

学習のきろく画面

	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
Step 1	1 (Perfect)	2 (Cleared)	3 (Cleared)	
Step 2	1 (Cleared)	2 (Cleared)	3 (Cleared)	
		2 (Cleared)	3 (Cleared)	
		2 (Cleared)	3 (Cleared)	
		2 (Cleared)	3 (Cleared)	

Perfect 100点! たいへんよくできました
 Cleared よくできました
 Try Again もういちどとりにきましょう
 (Green) とりにくいレッスン

レッスンにとりくもう!

Listening きく

Level 1 CLOSE ^

>Step 1 CLOSE ^

>Lesson 1 あいさつ/きもちのやりとり1 (Perfect)

>Lesson 2 あいさつ/きもちのやりとり2 (Cleared)

3 (Perfect)

CLOSE ^

とり1 (Cleared)

とり2 (Cleared)

100点! たいへんよくできました
よくできました
もういちどとりにきましょう

レッスン選択画面

取り組んでいないレッスンにはメダルがありません。